

# 生物

## 2022年度共通テスト本試験について

- 初回の共通テスト第1日程に比べ、考察問題の比率やマーク数・選択肢数などは同等ですが、考察問題の難易度が高かったため、全体的に取り組みにくい構成となりました。
- 各大問の設問は1つの分野に縛られることなく、題材に応じて複数分野から出題されました。
- リード文のうち、第2問A・第3問は会話文を含む「課題を発見し解決方法を構想する場面」であり、「『どのように学ぶか』を踏まえた問題の場面設定」の問題でした。

## 過去3回の出題内容

難易度 A: やや易 B: 標準 C: やや難

大問	2022年度本試験		2021年度本試験第1日程		2021年度本試験第2日程	
	出題内容	難易度	出題内容	難易度	出題内容	難易度
1	人類の進化と系統樹	B	ラクトース耐性の出現と拡散	B	グロブリンの構造から考える進化 植物の生殖と遺伝	B
2	植物の競争	C	トカゲの種間関係とすみわけ	A	植物の環境応答と光をめぐる競争	B
	植物への遺伝子導入	A				
3	脊椎動物の肢芽の形成と分化	C	林床の優占草本の光合成の季節変化	B	サンゴ礁の魚の生態ピラミッド	B
4	昆虫の行動とフェロモン	B	若鳥のさえずりの学習	A	腎臓での再吸収	C
5	被子植物の生殖の進化と昆虫の視細胞の分化	B	茎頂分裂組織からの葉の分化	B	節足動物の相同遺伝子	B
			根の緑化に関する探求活動	B		
6	植物の花粉形成に低温が与える影響	B	タンパク質の分布と眼の形成	B	フクロウの聴覚	C
			オタマジャクシの光受容と眼	C		

## パワーマックス 生物 出題一覧

新: 新規収録 / 難易度 A: やや易 B: 標準 C: やや難

第1回			
大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	新 植物の病害菌排除のしくみ	4分	B
	新 ダイズの発芽伸長に対する光・植物ホルモンの影響	8分	B
2	新 免疫と細胞死	8分	C
3	新 タンポポの花茎を用いた浸透圧の実験	8分	B
	新 ウニの未受精卵を用いた浸透圧の実験	4分	B
4	新 ニューロンの構造とはたらき	6分	A
	新 ミツバチの学習	8分	B
5	新 サクラマスの性成熟タイプと競争	7分	C
6	新 植物の発生と分化	7分	B

第2回				第3回			
大問	出題内容	解答目安時間	難易度	大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	炭酸同化	5分	B	1	核酸の構造、RNAウイルス	6分	A
	ジャガイモの浸透圧	7分	B	2	新 遺伝子変異と酵素活性の変化	7分	B
2	シロイヌナズナの上軸の決定	12分	B	3	育種とバイオテクノロジー	7分	B
3	活動電位の発生と伝導速度	5分	A	4	倍数性	7分	B
	オプシンの進化	7分	B	5	ニードルリーフの環境適応	8分	C
4	ハタネズミの繁殖習性	8分	B	6	生態系のバランスと種間関係	6分	B
5	進化と分子系統樹解析	8分	B	7	各種生態系の回転速度	7分	B
6	ゼブラフィッシュの硬骨形成	8分	C	8	分子時計	12分	B

第4回				第5回			
大問	出題内容	解答目安時間	難易度	大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	葉緑体と陸上植物の進化	6分	B	1	染色体の構造と転写	7分	B
	センチュウの由来ミトコンドリアの消失	6分	B		2	体細胞分裂と紡錘糸	6分
2	神経堤細胞の分化能	7分	B	2	減数分裂	5分	A
	根における幹細胞の分裂と分化	7分	C		3	表層回転と体軸決定	6分
3	味覚に関わる遺伝子のはたらき	11分	B	4	コオロギの生育環境と攻撃性	10分	C
4	ヘビの擬態	5分	B	4	生態系の維持	6分	B
	生態系の物質生産と消費	6分	B		5	カカオの菌根菌共生と病原菌耐性	7分
5	分類と3ドメイン説	6分	B	6	炭素14法、類人猿と現生人類の特徴	7分	B
6	隔離と種分岐	6分	B	7	大量絶滅	6分	B

## パワーマックスについて

### 編集方針

- 過去2年間の共通テストに照らし合わせ、大問ごとに様々な難易度の問題を掲載
- 様々な出題形式に対応できるよう、最新の本試験だけでなく、施行調査を含む過去に出題された形式も盛り込んだZ会オリジナル問題

### 書籍の特徴

- 全ての回は、今回・初回の共通テスト本試験に合わせて大問6題の出題であり、多くの大問で複数の大分野からの問題が含まれるようにしました。
- 共通テストで新しく導入された出題形式の問題を取り入れ、1冊を通じて対策できるようになっています。
- 全ての回で解答番号は全問通し番号としてあります。